

事前評価報告書

Advisory Board Meeting 開催日：平成17年7月28, 29日

評価委員：（敬称略、アルファベット順）

Prof. Masuo Aizawa (Tokyo Institute of Technology), Prof. Fritz Aldinger (Max Planck Institute for Metals Research), Prof. Akio Etori (Edogawa University), Prof. Jean Etourneau (Institut de Chimie de la Matière Condensée de Bordeaux), Prof. Colin Humphreys (University of Cambridge), Dr. Tetsuro Ohashi (National Traffic Safety and Environment Laboratory), Dr. Leslie E. Smith (National Institute of Standards and Technology), Prof. Marcel Van de Voorde (European Commission Research), Dr. Stan Williams (Quantum Science Research, Hewlett-Packard), Prof. Hiroaki Yanagida (University of Tokyo)

課題名	高度ナノ構造制御・創製技術の開発
研究責任者の所属・氏名	ナノマテリアル研究所 小口 信行
【項目】	評価結果
コメント及びアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクも高いが質の高い研究である。 ・プロジェクトの選定が優れている。NIMSは量子計算に強く関わるべきであり、これはチャレンジングであるが、興奮させる研究になる可能性がある。 ・量子コンピュータが何十年後に成功にするか懐疑的であるが、本研究の概略は優れており、興味深い。 ・本研究のようなやりがいのあるプロジェクトは、半導体ナノマテリアルの開発に重要であり、ナノテクの第一のキーテクノロジーである。TTN (Technology Transfer Network)-BASICプロジェクトを通して、他の研究グループと実施される有機的システムは高く評価できる。 ・NIMSはこれらの技術を内部で持つべきである。 ・サブグループ間の研究は、より密接な協力が必要である。 ・基礎研究としては先端的だが、独法と大学の研究スタンスの相違がわかりにくくなってきている。 ・これは世界一流のプロジェクトとは言えない。フォトニック結晶に対するより良いアプローチが文献の中に見られる。結晶作製技術が弱いように見える。基礎的問題の理解が説明では示されていない。以上の点から、よい研究にはなるであろうが、述べられたような素晴らしい研究にはなるのは難しいだろう。 ・本プロジェクトは創造的とは言えず、主張には必ずしも説得力がない。提案されたアプローチは独創的とは言えない。提案された最終目標は大変高いので、達成困難になると思われる。
評価点	S, A+, A+, S-, S-, A, S, A+, A, A
総合評価点※	A+

※評価点の点数は10(S), 9(S-), 8(A+), 7(A), 6(A-), 5(B+), 4(B), 3(B-), 2(C+), 1(C)とする。総合評価点は評価委員の点数の平均点(小数点第二位以下四捨五入)をXとすると、S:X=10, S-:9≤X<10, A+:8≤X<9, A:7≤X<8, A-:6≤X<7, B+:5≤X<6, (以下同じ考え方)・・・とする。